
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター センターだより第213号(通巻第280号)

2024年10月7日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790
E-mail: edjissen-as@yamanashi.ac.jp
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいても結構です。

*****コンテンツ一覧*****

- 新任教員 着任のご挨拶
- 令和6年度 第1回教師力養成講座 実施報告
- 山梨大学免許法認定講習（情報）を開講しました
- 第1回やまなし情報教育推進室学習会 開催報告
- 第44回教育フォーラムのご案内（2024年11月26日）
- 10月・11月の主な行事予定

■新任教員 着任のご挨拶

後期より、教育実践研究部門に2名の客員教授を迎えました。

教育実践研究部門（兼 教職大学院 客員教授）青柳 達也

10月からお世話になることとなりました。中学校教員を退職後は県教育委員会や本学(特任教授)に勤務しました。現在は本学教育学部の同窓会を手伝っています。微力ながら一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育実践研究部門（兼 教職大学院 客員教授）井上 孝悦

後期よりお世話になります井上孝悦と申します。令和4年3月をもって、山梨県立笛吹高校校長を最後に退職し、その後は甲陵高校、北杜高校、都留文科大学等で非常勤講師を勤めております。大変微力ではありますが、教育現場での経験を活かし、少しでも学生さんや先生方のお力になればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度 第1回教師力養成講座 実施報告

1 実施日 令和6年7月17日(水) 15:20~17:10

2 開催場所 A会議室(対面)
(都合により受講できない学生はオンデマンド)

3 次第

- (1) 開会行事
- (2) 講座
- (3) 閉会行事

4 受講者数 112名(対面)

7月17日(水)、山梨大学教師塾プログラム事業の一環として、「第1回教師力養成講座」を開催しました。

本講座は、学部3年生を対象に、現場経験豊富な講師のワークショップを通して、「後期実習への目標設定と指導力の向上」を目的に企画されました。当日は、対面形式で行われ112名が受講しました。

内容は、法政大学の辻本昭彦先生を講師としてお招きし、「自己肯定感とはなにかー根拠のない自信が最強の自己肯定感ー」というテーマでご講義いただきました。

講義中はワークショップ(グループワーク)が多く行われました。その際、客員教授の先生方にはグループワークの様子を見守っていただき、ご指導ご支援をいただきました。

当日、病欠の学生や他の授業を受講した学生は、後日オンデマンドで受講しました。

受講後には、オンラインでのアンケートを行いました。アンケートの内容から受講した学生にとって多くの学びがあった講座であることが伺えます。自由記述欄にも多くの前向きな意見が寄せられました。



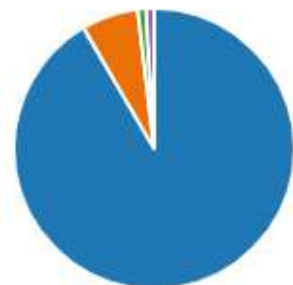
山梨大学教師塾プログラム 2024・教師力養成講座Ⅰアンケート集計結果

〈アンケート回答数 107〉

1. 辻本昭彦先生(法政大学教授)の講義について

詳細

1.よかった	98
2.まあよかった	7
3.あまりよくなかった	1
4.よくなかった	0
その他	1

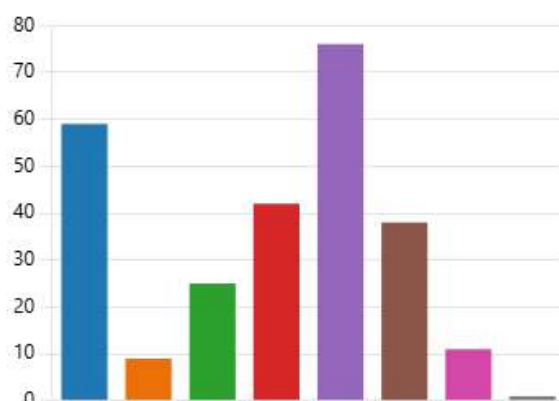


とてもとてもよかった

2. 辻本先生の講義を受講して、当てはまるものを次から選んでください。（複数回答可）

詳細

● 実習における人との関わり方について学べた	59
● 実習の進め方等について学べた	9
● 後期実習の目標ができた	25
● 後期実習への意欲がわいた	42
● 新たな視点・考え方を得た	76
● 教職へのモチベーションが上がった	38
● 教育現場の今日的課題を学べた	11
● その他	1



自分を大切にしなければと思った。

5 アンケート結果の分析

(1) 指導力の向上

○実習における人との関わり方について学べた: 59 人

自由記述において「子どもの自己肯定感を高める方法について知ることができた」「教師になるにあたって大事なことを学ぶことができた」という意見が多く、講義が指導力向上に寄与していることがわかる。

○実習の進め方について学べた: 9 人

自由記述において「子ども同士の話し合いが盛り上がらないときは、教師側の問いかけの仕方を見直してみたい」という意見もあり、実習に向けた準備として有意義であったと推察される。

(2) 後期実習への意欲・目標

○後期実習への意欲がわいた: 42 人

自由記述において「後期の実習のためになった」「後期の実習に向けて頑張りたい」という意見が多く、講義が実習への意欲を高める効果があったことがわかる。

○後期実習の目標ができた: 25 人

自由記述において「後期の実習においてどんなことを意識してみたいか考えることができた」という意見が見られ、講義が目標設定のきっかけとなったことが確認できる。

(3) 新たな視点・考え方の獲得

○新たな視点・考え方を得た: 76 人

自由記述において「自己肯定感について新たな考え方がわかった」「自己肯定感の新たな視点を獲得することができた」という意見が多く、講義が新たな視点を提供する役割を果たしていることがわかる。

(4) 教職へのモチベーションの向上

○教職へのモチベーションが上がった: 38 人

自由記述において「教師になるにあたって大事なことを学ぶことができた」「教職に対する意欲が高まった」という意見が見られ、講義が教職へのモチベーション向上に寄与していることが確認できる。

(5) 教育現場の今日的課題の理解

○教育現場の今日的課題を学べた: 11 人

自由記述では具体的な課題に関する言及は少ないものの、講義が教育現場の課題に対する理解を深める一助となったことが伺える。

以上のことから、本講座は後期教育実習に向けた目標設定や指導力の向上という目的に対して、多くの学生にとって有意義であったといえる。また、新たな視点や考え方を得ることができた点や、教職へのモチベーションが上がった点も大きな成果であった。

運営面においての課題としては、5限の授業があり途中退出する学生が多かったことが挙げられる。欠席者や途中退出者に対しては、当日の講義の様子を録画し、オンデマンドで配信する措置を講じた。しかし、途中退出者のアンケート記述からは最後まで辻本先生の講義を受けたかった旨の意見が多かった。今年度は、教員採用試験を3年生が受験できることとなり、3年生向けの教職支援の行事が一次試験後の水曜日に集中したため、苦渋の日程設定となった。来年度以降は教員採用試験の日程、教職支援の行事日程を考慮しながら、開催時刻を早め、4限の時間内に終わるような時間設定を検討する必要がある。

また、例年本講座は2部制で行っていたが、本年度は他講座と日程が重なったため、1講座のみの開催となった。しかし、メリットとして辻本先生の講義時間を例年より長く設定することができた。来年度以降、本講座の目的や開催日程等を考慮するなかで、2部制に戻す可能性も視野に入れながら内容についての検討も行っていきたい。

6 参考（自由記述）

<辻本先生の講義の感想>

- ・講義を全部受けることができませんでした。時間が経つのがあつという間でもう終わりかと思ってしまうような活動や話ばかりでした。全部受けることができず、残念でした。どんな話がこのあとに続くのか気になります。
- ・自己肯定感の重要性について改めて認識することが出来ました。また、グループでの活動では他の人のことを褒める練習にもなりましたし、自分を褒められて嬉しい気持ちになり、自己肯定感が上がりました。
- ・自分を褒めてもらうという機会がなかなかないから、貴重な時間だった。すごく楽しかった。
- ・自己紹介のプレゼンテーションをしてから、それに対しての周りの人からの自分に対しての意見を求めることによって、自己肯定感がとても上がった。凄く良い機会を得ることが出来た。
- ・自己肯定感とは何か、自分のいいところはどこかなどについて学ぶことが出来た。他人のいい所を想像して見つけるのは非常に大変であった。
- ・今まで受けた大学講義で1番面白かった。
- ・とても面白く、学びになりました。ありがとうございました。
- ・自己肯定感が高い方だけとより高くなったと思った
- ・教師になるにあたって大事なことを学ぶことができました。
- ・知らない人と話し合うことが苦手だが、いい所探しのおかげで、積極的に話せて良かった。自己肯定感について色々な意見を知ることが出来て良かった。
- ・後期の実習においてどんなことを意識してみたいか考えることができた。
- ・自己肯定感を高めることは大切と言われているが、どうやって高めるか考えると非常に難しいものだと感じた。
- ・すごくおもしろかった。自分の頭で考えて、言葉にして人に伝えてディスカッションをすることの重要性や、面白さに気付かされた。
- ・自己肯定感を上げるには、自己評価を重んじるべきか、他者評価を重んじるべきか、深く考える初めての機会になった。
- ・主体的に参加する意欲を持てる講義だった

- ・価値観をぶつけ合って討論することが楽しかった。お互いに納得いくまで話すことで内容を深めることができた。
- ・子どもとの関わりの中で、自己肯定感を高める方法について知ることができた。自分の価値観でのダイヤモンドランキングを大切に後期や実習に向けて頑張りたいと思う。
- ・自己肯定感が高まった。初対面の人との自己紹介でお互いのいいところを書き出すということは新しい考えでこれから人のいいところをたくさん見つけていけそう。
- ・自己肯定感の高め方というのは、子どもと接する上でたしかに大事なことだと思う。そのことに気づくことが出来た！時間だった。
- ・大切だと思っていた自己肯定感もそこまで深く考えたことがなかったのでとても学びになった。自己肯定感とは何か、教師としてどんなアプローチができるかなどを学べた。
- ・初めての人が多かった班だったけど、良いところを書いてもらって確かに自己効力感が上がったように感じた
- ・子どもの自己肯定感を高めるためにはどうするのが良いのか、すごく考えさせられるお話と活動だった。
- ・今回の講義を終えて、自己肯定感の大切さを学んだ。これからの教育現場で子どもと接する場面においてとても大切であることを学んだ。
- ・自分たちで議論したり、別グループとプレゼンし合ったりして、色々な考えを知ることができてよかった。自己肯定感について、今まではそんなに深く考えたことがなかったが、考える機会になってよかった。
- ・とても勉強になる講義でした。教員として子どもと関わる上で、自分が大切にしていることや他の人が大切にしていることが知れたし、後期の実習で意識したいと思えることができました。
- ・根拠のない自信ということなんだかマイナスなイメージだが、根拠の無い自信は自分自身を元気にしてくれたり自分に自信をもてたりするということが分かった。子どもたちに自信を持たせるために褒めたり、認めたりするのはもちろん、まずは自分がありのままの自分を好きになれるよう、自分を認めてあげたいと思った。
- ・自己肯定感というと今までは漠然としたイメージしか持っていなかったけど、この講義で自分の意見と他の人の意見を比べて、辻本先生の考え方を知ることによって、自己肯定感について深めることができた。
- ・他者との関わりを通して自分の良さを少しだけ理解できた。
- ・ダイヤモンドランキングでは、新しい視点を獲得することができ、全く違うランキングでも納得することが出来た。
- ・堅苦しい講座が多い中で久しぶりに楽しい講座だった。
- ・一見、自己肯定感を高めるのに繋がりそうな行動もよく考えればそうではない可能性も考えられることがわかった。
- ・自己肯定感への定義づけとそのためへの手立てを、ディスカッションを通して考えることができた。
- ・いじめを減らすためには自己肯定感が必要だと思っていたので、自己肯定感とは何かと考える機会は自分のなりたい教師像に近づくために必要だと感じた。具体的に話していただけてまだ理解しきれないところもあったが、視点が増えてよかった。
- ・子どもの自己肯定感をあげることも大事だし、まずは自分から自己肯定感を高めていくことが必要なのだと感じました。
- ・自己肯定感を高める上での種類があることを知り、私は何の種類を大事にしているか顕著に知れて面白かったです。また、グラフを見て、今後の関わり方を意識したいと思いました。ありがとうございました。
- ・自分の考えと他者の考えを組み合わせるランキングを決めるということが、自分が思っている以上に難しかった。自己紹介するだけでもちょっと工夫するだけで相手の印象が変わったりする。
- ・「自己肯定感」というテーマでのお話で、子どもたちの自己肯定感を高めていくために何が必要かを考えることができた。初対面の人と自己紹介をし、褒めてもらえたことでとても嬉しかった。大学生でも嬉しいということは、子どもたちは褒められるととても嬉しいだろうなと思った。後期の実習において、子どもたちと関わる上で、今日の自己肯定感を意識しながら関わっていきたいと思った。
- ・自己肯定感について改めて考えることが出来た。後期の実習に今回学んだことを活かして臨みたいと思う。
- ・先生の考える自己肯定感やその上げ方についてしれた。それらを参考に後期の実習に取り組んでいきたいと思った

- ・いつも教職の講座だと教えるということが中心で、つまらないと思っていたが、他者の意見を聞いたり、議論できたりして有意義な時間だった
- ・グループでの活動を通して、自己肯定感を高めるための方法について考えることができ、良い経験となった。
- ・引き込まれる話しの内容だった。自分も教員としての魅力を持ちたいと感じた。
- ・最初の良いところ探しでは、実際に自分の自己肯定感もあがって、効果的だと感じた。
- ・講義の前にも、こんなコメントがあったとおっしゃっていたが、本当にこれが教師力なのだと思う講義だった。本当に楽しく実際に活動して考えて感じることで学ぶことができた。ありがとうございました。
- ・今回、辻本先生の授業を受けてみて、たくさんの活動を初対面のグループの方々としていく中で自己肯定感の大切さを知った。自己肯定感が主体性などに繋がっているということをして、後期の実習のためになったと思った。
- ・教師力について新しい見解を知ることができました。「自己肯定感」は「自尊心」ということ。ありのままの自分に価値があると思うことやそれは他者との関係の中から生まれるものであることなども自分なりに考えてみました。エンパシーという言葉も初めて聞き、とてもためになりました。ありがとうございました。
- ・自己肯定感について新たな考え方がわかった。だれでも褒められることは嬉しいし、褒めることで多くのプラスの感情を抱けることがわかった
- ・話したことの無い他の学科の学生とグループワークだったので最初は少し不安だったが、すごく楽しくてあっという間でした。
- ・自己肯定感というワードは最近よく耳にするが、そのワードを教育と結びつけて考えるのがとても面白かった。今回の講義を踏まえた上で後期からの実習も頑張りたい。
- ・自己肯定感を高めることの重要性について理解を深めることができた。それと同時に、自己肯定感が低い子どものように接していけばいいのか考える良い機会になった。
- ・実は、講義が始まるまでは、講義を受けることがめんどくさいなと感じていた。しかし、受けてみたらとても楽しく、有意義な時間を過ごすことができた。教師になるにあたり、子どもの自己肯定感はもちろん、私自身の自己肯定感を高める方法等についてもっと考えを深めたいと感じた。
- ・ワークショップがあってとても楽しく学ぶことができました。自己肯定感のとらえかたによってダイヤモンドラインキングが変わることを実感しました。議論時間が足りませんでした！
- ・グループワークでいろんな人の話を聞くことができて面白かったです
- ・講義全体を通してとても楽しかったです。自分で考える時間と他の人の考えを聞く時間が多くあって新しい考え方を知ることができました。
- ・同じ考え方の人もいれば違う考えの人もいて、相手から受けているイメージも知ることが出来て良かった。
- ・最初に実際に取り組んで話を聞くことで説得力がある話になると思った。
- ・自分も少し似た考えを持っていたが、今回の講義をお聞きしてそれらを整理できた気がする。自分であるから価値がある、価値がある自分の行う全てに価値があるという、笑ってしまうほど根拠の無いこの自信を集めて固めた土台を元に根拠のある自信を作っていくことが自信、ないしは自尊なのかなと思った。
- ・今回の講義では、自己肯定感を高めるにはというダイヤモンドランキングを作成したことが非常に興味深かった。私自身、自己肯定感が非常に低いので、生徒の自己肯定感をどのように高めていけば良いのかについて考えることができた。また、人によって意見が全く異なり、人それぞれの考え方が面白かった。今日の講義で考えた自己肯定感を高めるにはについて、後期の実習でも考えていきたい。
- ・こういった講座は面白くなくていつも上の空なことが多いが、今回はすごく面白くて前のめりで聴いてしまった。もっとゆっくりじっくり辻本先生のお話を聴きたかった。そして、グループワークでは緊張したけど褒められるとこんなに嬉しいのだと自己肯定感が高まった。
- ・貴重な機会をありがとうございました。

- ・教職に関することだけでなく、教員に必要な基本的な力である人との接し方、自己肯定感について考えることが出来て、とても良い機会になったと思った。
- ・初対面の人と話す機会がなかなかなかったので楽しく参加することが出来た。
- ・途中までしか参加できなかったが、アイスブレイクの際に1人が終わった後にアドバイスや次やってほしいことなどを言っていてとてもわかりやすく面白かった。もし次の機会があったら最後まで受けてみたいと感じた。
- ・途中までしか参加できなかったが、グループワークということもあり楽しく積極的に参加できた
- ・授業の関係で全てを受講することは叶いませんでしたが、会話に引き込まれる体験をすることができ、教員を目指しているもの身として、とても興味深いものであった。
- ・私は前期の教育実習で同じ実習生に、やる気がない、あなたがいると士気が下がる、あなたのせいで〇〇だった、と言われる経験をしました。その日から自分のことを責めたり蔑んだりすることが増え、自分を肯定するとは縁遠い生活を送っていました。今日の講義で私の状況など何も知らない学生に、嬉しい言葉をたくさん書いてもらいました。同情でもなんでもない、今の私だけをみて褒めて認めてくれる存在がいることがとても嬉しかったです。そうだと、私っていいところもあるじゃん、と素直に受け止めようと思いました。どうしても、思い出して辛くて泣いてしまう日もあるのですが、今日の授業プリントをお守りに自分を肯定しながら、後期の実習を頑張りたいと思いました。
- ・普段あまり話さない人たちのグループワークだったため、最初は緊張していたが、自己紹介やいいところ探しを通してお互いのことを少しずつ知ることができて面白かった。「いいところ」を探そうと思えば溢れるように出てきて、その「いいところ」をどれだけ見つけてきちんと伝えることが出来るのか、ということが、自己肯定感をあげる上で大切なことなのではないかと感じることができた。1人1人違う個性を持っている子どもたちが、その個性を生かしながら自分らしく学ぶことができるような環境を作るためには、子どもたち自身が自分に自信を持つことが出来るようになることが大切なのではないかと感じた。そのために、子どもたちのいいところを探して伝えるという力が必要になってくるのだと思うし、相手のいいところを見つけるためには、何を「いいところ」だと感じるのかという価値観が自分の中に必要になるのだとも思う。だからこそ、自分の「いいところ」もきちんと認めることができる、自己肯定感を大切にしたい教師になりたいと感じた。また、途中までしかいることが出来なかったのが残念だと思うくらい楽しく参加することができ、あの後がどのような展開だったのかとても気になった。
- ・途中退室であったため、途中までしか受講できなかったが、とても有意義な時間であった。実質的に初対面の人が多くいた中で、アイスブレイクで盛り上がったことで少しずつ話せるようになり、グループ活動はかなり円滑に行うことができた。自己紹介では、私は4番目だったため、どんなに話しても誰も反応してくれなかった。なぜ自分がここに当たってしまったのか非常に辛く、次の人は③のところで「4番目に当たらなくてよかったこと」と言っていたため、とても悲しかった。ただ、少し冷静になるとその悲しさから、聞き手の大事さについて感じる事ができた。相手の話についてきちんと相槌を打つべきだということを、自分の犠牲のもと知ることができた。また、自己肯定感のワードを分別する活動では、皆と実習の体験をもとに考えることができた。何が大切なのか、何を重視していくべきなのか、様々な意見が出される中でうまくまとめていくことができた。これもまた、アイスブレイクのおかげであったのではないかと考えた。
- ・話し方が特徴的で、あまり大学の講義を集中して聞くことがあまり無かったが自然と話にのめり込んでいたように感じた
- ・5限があり、最後まで参加することができませんでしたが、他の学生と、とても楽しくコミュニケーションをとることができました。自己肯定感を上げるための関わり方については、自分と違う考えの人も多くて、その理由を聞く中で、たしかにそうだと新たな考え方を待つこともできたので良かったです。
- ・5限の関係で途中までしか、受講することができなかったが、楽しくて、興味が惹かれる内容だったと感じた。講座を受ける前はいつもと同じ話を聞くだけの内容なのだろうなと思っていたが、活動が多かったこともあり、楽しく受講することができた。これは、生徒に授業する際も大切になる視点なのだろうなと感じた。生徒に興味を持ってもらえる話、活動を考えることは教師として、授業をする上でとても大切なことだと感じた。
- ・また、今回の講座で自分のいいところを想像でも誰かに書いてもらえたのは、とてもうれしかった。私は、そこまで自分に自信が

なく、普段近くにいる人からほめてもらえてもそこまで信じることができなかった。今回は初対面の人、あまり話したことのない人から、良いところを挙げてもらったため、自分が他人にどうみられているのか、第一印象はどう受け取られているのか、はっきりと知ることができた。以外にもこう見られているといいなと思っていたことが叶っていてうれしく感じ、少しだが、自己肯定感を挙げることができた。また、いつもは選ばれたり、任されたりすることが少し億劫になってしまうMCに選んでもらえたこともほめてくれた仲間からだったため、少しうれしく感じた。今回は5限があったため、途中で講座を受けることができなかったが、時間があればもう少し受けてみたかったなと感じた。

- ・貴重なお話をありがとうございました。
- ・グループ活動を通して実践的に学習できたため、先生のお話を理解しやすかったです。しかし、途中で退席をしなければならなかったため、自己紹介をただで終わってしまった感が強く、今日の内容の主題についてはあまり分らなかったです。前半に講義をまとめていただくなどするとありがたかったです。
- ・初めましての人とも交流ができた。途中で授業になってしまったが最後まで受けたかった。
- ・プレゼンを通して、ほぼ初対面の学生とも仲良くなることができた。今回の経験を生かして、気持ちを伝え合ったり、ポジティブな言葉をかけたりすることで交流を深めていきたいと考えるようになった。
- ・最後まで参加できなかったことがとても残念に思うほど、講義としての堅苦しい感じは全くせず、楽しく関わり、自己肯定感について学ぶことができた。
- ・最初は、強制だからという気持ちで講義を受けにきたが、話を聞いたり、グループワークを行ったりするうちに、どんどん講義に引き込まれていった。いいところ探すと、自己肯定感キーワード選びの途中までしか講義を受けることができなかったが、教師として必要なことを学べたと思う。最後まで講義に参加したかったと思った。
- ・初対面の人が多いグループで自己紹介やメンバーの良いところを探したり、自己肯定感に大切なことを順位付けしたりする活動を通してどんどん活発に話することができるようになっていった。
- ・はじめは、ただ講義を聞いているだけだと思っていたが、様々なワークショップを通して、まずは自分について知ることができる良い機会になったと思う。
- ・まさに教師力を感じることができる講義でした。あっという間に5限の時間になってしまいました。最後まで受講したかったです。
- ・子どもの自己肯定感の上げ方に関して、ダイヤモンドランキングを用いて共有し合ったことで、様々な意見に触れることができて面白かった。全く一緒の意見はなかったが、上位・下位になる傾向は同じで、改めて自己肯定感を外部から上げる難しさについて考えるきっかけとなった。
- ・先生のペースであったり、話し方であったりがとても面白く、今回の講座はとても楽しみながら聴くことができました。
- ・講義を通して、こんなに笑いながらグループワークをしたのは本当に久しぶりだと感じた。楽しみながらも、自己肯定感に対して実際に褒められながら自分自身で体験出来て良かった。いつもの授業ならグループワークも「めんどくさいな」と思って取り組み、終わった後もあまり記憶に残っていないことが多かったが、今回は本当に楽しかったし、この授業を受けて良かったと思った。また、辻本先生の親しみやすい雰囲気だったり、学生の行動を誘導しながらも学生自身授業を作り上げているようにしたりする技術もあってこそ、今日のこのような授業ができていたのだと感じた。
- ・後期実習において、子どもとの関係構築の中で意識すべきこと、周りに関わる中で大切なことなどを学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・5限があり講義を全て参加することができなかったため、十分に学びを得ることができませんでした。ワークショップを通して、子供に対するアプローチの仕方を今後の教育実習で工夫していきたいと思いました。
- ・最近自分の直したいところばかり目について自己肯定感が低くなっていましたが、それ込みで受け入れてみようと思いました。とはいっても人から褒められるのは元気が出るほど嬉しかったです。
- ・自己肯定感を高めるためには、聞き手がとても重要になっていることを学ぶことができた。学校では、先生が聞き手になること

で、児童・生徒の自己肯定感を高めやすくなると思う。グループワークでは、自己評価をしない方が良いという意見が出て、自分の考えが変わった。まだまだ、至らない点があるので、他の先生や学生と交流をして、聞き上手な先生になれるように頑張りたい。

- ・途中退出となってしまったが、大変面白い講義であった。人に多く褒められることがなかなかないため、恥ずかしくもあったが良い機会であった。
- ・話に引きこまれる感じがして、とても楽しく講義に参加することができました。辻本先生は少し早口になってしまうかもと仰っていたけれど、早口なのが逆にテンポよく、話を聞き入ることができたと思います。また、自己肯定感というテーマで、現代の若者の間では話題となっていることだと思うので、より親近感をもつことができました。あまり関わったことのない人たちと自己肯定感について考えるという大胆な内容で、恥ずかしくも嬉しい気持ちになることができました。誰かに褒められる、認められるということが嬉しい人は少ないと思うので、これから人と関わる上で大切にしていきたいと思います。現代の若者の中には自己肯定感が高い人もいるが、低い人が多いのではないかと感じています。特に日本人は謙遜する人が多く、自分を出してアピールする人があまりいないと感じます。教育現場を通して、自己肯定感が上がる経験というものを多く作っていきたいと思いました。
- ・授業の中でたくさん褒める言葉を使っていて、それが授業に引き込まれたり授業を受けたいと思えたりするきっかけになっていると思った。途中退出で、最後まで講義を受けられなかったことが残念だが、子どもや人との接し方を考えることができた。
- ・グループの人と話す時間が楽しかったです
- ・児童生徒にグループワークを提示するときには、教師側の問いかけ方によってその話し合いの発展の仕方、盛り上がり方が違ってくるのではないかと感じました子ども同士の話し合いが盛り上がらないときは、教師側の問いかけの仕方を見直してみたいと思いました。
- ・辻本先生のアイスブレイクやグループディスカッションは、大学生で大人になった私たちでも中高生のように楽しんで活動することができていたのが不思議だった。子どもたちの自己効力感を考えるダイヤモンドでは、みんなで話し合いながら合意形成をして意見をまとめていったのが良かった。後期教育実習のいいイメージができた。
- ・途中で退席してしまったのであまりお話を聞くことは出来なかったが、ワークショップを通じて児童生徒の自己肯定感を上げるためにはどうすればいいのか考える良い機会になった。
- ・授業の関係で途中退出してしまったので、グループワークの答えが気になりました。自己紹介など、初対面の人とも盛り上がり楽しかったです。
- ・途中までの参加だったが、楽しかった。
- ・ワークショップなどを通して、自己肯定感について考えることができました。
- ・講義メインではなく、グループワークメインで多く班の人と交流することができた。
- ・聞く人を引き付けるような話の間やスピードで学校現場だけでなく普段の生活でも役立つことを沢山学ぶことができた。
- ・自分が体験しながら講義のポイントを聞くことにより、より理解を深めることができた。また、子どもたちとの関わり方においても人によって順番の違いがあり、その認識を共有することも面白いと感じた。聞くだけではなく、みんなで話し合う時間があるため、聴きながら面白いと思うことが出来た。
- ・先生の話聞き、教師力というものを学び得たと同時にグループワークを通して、子どもたちへどのような意識・指導が必要であるか考えるきっかけになった。
- ・とても自己肯定感が上がりました。
- ・グループワークなどが充実しており、また資料も見やすかった。自己肯定感と言ったような言葉はよく聞くが今回でより明確に理解することができた。

<本講座について>

- ・楽しかったです。出来れば全員でやりたかったです。
- ・私は、障害児教育を専攻としているのですが、障害のある子どもの自己肯定感の上げ方を教えていただきたいです。
- ・初対面じゃないので班分けもう少し考えて欲しいです
- ・5限によってかなりの人が減ってしまっていたので、行う時間を調整しても良いと思った。
- ・後期の教育実習に向けて目標を立てることができました
- ・今回のように教職に関することだけでなく、教員になる際に必要な力についてピックアップして深く考えられる機会を提供してもらえ、とても役に立つなと思った。定期的に開催して欲しい。
- ・来年も後輩たちに先生の講義を対面で受けさせてあげたいです。こういう機会を減らさないであげて欲しいです。
- ・クーラーの風が寒過ぎた人がいたようです。
- ・他の授業と重ならない時間帯だとありがたいと感じました。
- ・貴重な学習の時間をいただき、ありがとうございました。
- ・全員参加が前提なのにわざわざ申込制を取ったのは意味がわからない。
- ・自分のグループが3人だったのですが、待ち時間が長かったです。2人も休んだことがいけないのですが、その場で人数調節をするなど配慮をしていただけると、グループ差なくなるのではないかと思います。
- ・また、授業に重ならないようにしていただくか、講義を録画するなど代替措置をしていただけると嬉しいと思います。学びたい意欲があった分、中途半端なところで終わってしまったことが残念でした。
- ・スケジュール調整はとても難しい点があると思いますが、大半の学生が途中退出してしまっていたので、時間の調整をもう少しお願いしたいです。
- ・5限で最後まで講義を受けられず、とても残念でした。
- ・いつもは話を聞くだけだと思っていたが、自分たちが参加できるワークショップがあることで意欲的に取り組むことができる。
- ・5限の関係で途中退席してしまったので、できれば最後まで受講できるように日程調整していただきたかったです。
- ・最後まで参加しなかったのが、日程調整や公的に遅刻などができたらよかったと思う。



山梨大学免許法認定講習（情報）を開講しました

やまなし情報教育推進室

山梨大学教育学部では高等学校での情報Ⅰの必修修化、大学入学共通テストにおける「情報」の導入を受け、教員としての資質向上と情報免許の取得教員を増やすことを目的に、高等学校教諭免許状を持つ現職教員等が高等学校一種免許状（情報）を取得する機会として、山梨県教育委員会との共催により情報の免許法認定講習を開講しました。

認定講習では、免許取得に必要な12科目を1年あたり4科目ずつ計3年間をかけて開講していき、必要な単位を取得すれば高等学校一種免許状（情報）が取得できます。本講習は、専門性のある本学教員が講師を務め、現職教員の勤務や経済的な負担を支援するために夏休み期間および土・日に開講しています。そして本学が受講料・教材費を全額補助するなど全国的にも珍しい形で講習を開講しています。夏休み期間である8月には「プログラミング基礎と演習Ⅰ」と「情報システム」が開講されました。受講者は39名、うち県外から7名の方に受講いただきました。



▲「プログラミング基礎と演習Ⅰ」の様子



▲「情報システム」の様子

今年の11月には「情報社会」、12月には「プログラミング基礎と演習Ⅱ」の開講が予定されています。他教科の高等学校の免許状を有する本学大学院生、教員就職を目指すパーパーティーチャーなど幅広い方に受講いただき、高等学校一種免許状（情報）のニーズの高さがうかがい知れます。

やまなし情報教育推進室では、情報の免許法認定講習を企画・運営しています。また、ICT活用についての理論と実践を兼ね備えた教員の養成、山梨県内の学校現場の先生方のお役に立てる取組を今後も継続していきます。

Web ページでは最新の情報を発信していますので、ぜひアクセスください！

■山梨大学教育学部附属教育実践総合センター やまなし情報教育推進室 Web ページ

<https://www.yamanashi.info/>



第1回やまなし情報教育推進室学習会 開催報告

やまなし情報教育推進室

2024年8月21日(10:00～16:00(昼食休憩1時間))、山梨大学甲府西キャンパスY号館Y-12教室にて「第1回やまなし情報教育推進室学習会」が開催されました。本学習会は、山梨大学教育学部附属教育実践総合センター やまなし情報教育推進室とインテル株式会社が共催し、地域の情報教育の発展を目指した取り組みの一環として、小・中・高・特別支援学校の教員や教育委員会、大学生・大学院生を対象に、ICTと探究的な学びをテーマに実施されました。

学習会概要

今回の学習会のテーマは「好奇心とICTで創る未来の教室 - 探究的な学びによる課題解決 -」であり、探究的な学びを実現するための授業デザイン、プロジェクト型学習、クラウドツールの効果的な活用法について体験を通じて学ぶ内容が中心でした。参加者は30名となり、教育現場におけるICT活用の新しいアプローチを実際に体験し、地域の教育向上に向けた積極的な議論が行われました。



■ 開会挨拶とやまなし情報教育推進室の紹介

附属教育実践総合センター長、やまなし情報教育推進室長の長谷川教授から、やまなし情報教育推進室の設立の背景や目的、これまでの活動実績について説明がありました。また、推進室の役割として、山梨県と連携しながら、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のICT活用・情報教育において一貫性のある「やまなしメソッド」のカリキュラムの開発と、情報教育の推進を強調しました。



■ キャリアリンク株式会社 挨拶

キャリアリンク株式会社の若江社長からは、同社とインテルとの強固なパートナーシップについて話がありました。インテルが提供する教育プログラムが、探究的な学びとICT活用の融合に寄与することを強調し、教育現場でのICT導入がいかにより生徒の創造力を引き出すかを説明されました。



■ 午前の部：学習者中心の授業スタイルについて

キャリアリンク株式会社の小池氏による講義とワークショップが行われました。午前の部では、特に ICT を活用し、学習者中心に深く学ぶことができるようにするためには、どのような授業であれば良いのかを検討する機会が提供されました。参加者はグループディスカッションを通じて、自らの意見について ICT を活用して共有し、具体的な教育実践への応用方法を模索しました。



■ 午後の部：ICT を活用した学びの実践について

午後には、参加者が実際に ICT を使用し、学習者中心の学びを体験しました。プロジェクト型学習を中心とした授業デザインの具体的な事例が紹介され、参加者は自らの実践に役立てるための方法を学びました。特に午後の部では、それぞれの学校で、実際に利用できる授業デザインを検討し、具体的な授業案の作成をしました。そして、その成果を互いに発表しました。

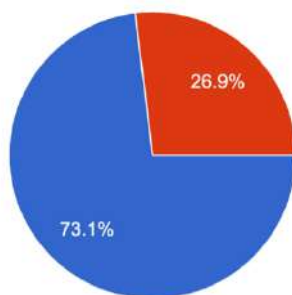
学習会のアンケート結果

■ 申込者数 34 名

参加者数 30 名（小学校：10 名，中学校：6 名，高等学校：6 名，教育委員会：3 名，学生：5 名）

■ アンケート回答者数 26 名

1. 今回のフォーラムの満足度を教えてください



1 満足した	19 名 (73.1%)
2 まあ満足した	7 名 (26.9%)
3 どちらともいえない	0 名 (0%)
4 あまり満足しなかった	0 名 (0%)
5 満足しなかった	0 名 (0%)

*全ての方が満足した・まあ満足したと肯定的な回答

2. 1の回答理由を教えてください。

- 新しい情報や違う校種の方の考えに触れることができた
- 二学期からの授業に生かしていこうと思う内容が多かった。
- 具体的な授業案を考えて共有したことで勉強になった

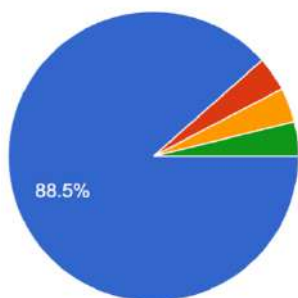
- 授業デザインについては非常に勉強になりました。しかし、新しい ICT ツールについても教えていただける
とさらに良かったと思いますので、またそのような機会があれば嬉しいです。また、もしそのような内容がチ
ラシなどで具体的に示されていると、さらにありがたいです。
- 授業観の転換の必要性をさらに強く感じました。
- ICT を活用した授業のデザインについて学べた
- 具体的活用法を知ることができた
- 授業に新しい視点を持つことができた
- ICT の利用を促進する方法と学習者の主体性が重要だと学べた。インテル様のツールを利用してみたいです。
- 今求められている ICT 教育、情報活用能力の価値について学ぶことができました。
- いろいろ考えることができたため
- 学習者主体の授業をデザインすることの大切さが学べたから。
- これまでなかった新たな視点をたくさん得ることができたから。
- 自分が持っていない視点を得ることができた。
- ICT の活用について考える機会にできた
- 様々な校種、学ぶ意欲の高い先生方とお話できたこと、変革の時期に来ていることを改めて実感できまし
た。
- テクノロジーを活用した、実践のさらなる発展を見つけることができ、ありがたかったです。
- 新しい知識が得られた
- 現職の先生方の具体的な実践などを学ぶことが出来た。自分の知識不足で理解不足な部分があったが、内容は
とても満足できるものだった。
- 考え方としてはすごくわかりやすかったです。自分が考えた授業がはたしてあっているか、個別最適な学びを
実現できているといえるのか、などが自信がないです。
- 1日の学習会となりましたが、その分たくさんの学び、視点をいただくことができました。
- キャリアリンクさんの教育についての考え方のベースは、「産業界が求める能力」(1996年→2018年)の影響
が大きいと、工業探究の教材とあわせて学ぶことによって、分かったから。
- 二学期からの授業に生かしていこうと思う内容が多かった。
- 研修自体の構成が、子ども主体の授業デザインが示されたものであり、講師の立ち振る舞いが教師の役割を体
現するものであった。また、授業分析、授業デザインのストラテジーにまつわるメニューがとてもよかった。

3. 今回の学習会に参加された感想を教えてください

- わかりやすく、一日あっという間な時間でした。二学期の授業が少し楽しみになりました。
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- たくさんのヒントを得ることができました。
- 学習者主体の授業デザインについてより考えることができた。また他の先生と交流することができたことも
よかった。
- 1日とは思えないほど、楽しく時間があっという間に過ぎてしまいました。授業をすぐに大きく変えることは
できないと思いますが、少しずつ変革していければいいと思いました。ICT の活用について他の先生方との意
見交流を通して様々な知見を得ることができました。ありがとうございました。
- 生徒が主体的に学ぶ授業転換が今求められていると強く感じました。
- 教師の役割が変わり、学習者主体の授業が広がっていることがわかりました。校内だけを見ていると世の中
にどんどん置いて行かれてしまいそうです。新しい情報をどんどん取り入れて、自分自身をアップデートし
ていかなければと感じました。
- 学習者中心の授業のデザインのアイデアを学べてよかった
- 今後の授業だけでなく様々な活動に生かしていきたい。

- 出来ればサマリーでなく、通常の講習もお願いしたいです。
- 異なる校種の先生方と情報活用能力について、話をすることができて良かったです。
- 2学期からの授業を具体的に考えられたのが良かったです。
- 児童の学習環境が大きく変化する中で、どのような視点で授業をデザインしていけば良いかを学ぶことができた。また、異校種の先生との交流を通して情報活用への系統性なども考えるきっかけとなった。
- 触媒という考え方に、「なるほど!」と感じました。また、情報活用能力を小学校1年生から高校まで系統的に考えていくことも、とても面白いと感じました。
- 同じ意識を持って参加している人たちと討議できてよかった
- 大変刺激が多く、ありがたかったです。
- 情報活用能力とはどんな力なのか、また、どのように子供達に身につけさせていくか、そしてテクノロジーを活用していくことでこれからさらにどのような教育に発展していくのかを考えることができ、とても有意義でした。今日の学習会をうけ、まだまだ教育におけるデジタル化は始まったばかりで発展していくことを感じました。きっと20年後にはもっとすごい世界が待っていると思うので、今からこうした学びを増やしていきたいです。ありがとうございました。
- 新しい知識が得られた。校種の枠を越えた交流ができた。一方で想定していた内容とややギャップ（レベルが高度?）があった。普段Google for educationがメインのため不慣れなソフトが多く、明日から使ってみよう!には遠いかなという印象を受けました。事前の講義内容アナウンスがもう少し詳細だとよかった。あるいは、校種別のメニュー、実施だとよかったと思います。
- 初めて周りに現職の先生方が沢山いらっしゃる研修会に参加させて頂いたが、とても高度なことを考えていらっしゃる様子や、子供たちの様子を考慮して授業をデザインされており、自分も教職に就いた際にそのような授業を構想できる教員になりたいと思った。
- 新しいことを学べることは、とても楽しかったです。新しい技術、知識が多くて学び続けることの大切さを再確認しました。
- 様々な学校の先生方と交流できた上に知ってはいても触ったことがないことばかりで楽しかったです。
- 情報教育推進について、これまでのコロナ禍等で一層進んできたように思えますが、実際には有効活用できていない実情が多いと感じています。今回の学習会を通して、改めてこれからの子どもたちにそんな力が求められること、合わせて教員にも変革が求められると感じました。本日の学びを少しずつでも日々の実践に活かして行きたいです。
- これからの未来像について、キャリアリンクさんの教材では競争の激化（生存の難しさ）が強調されているように感じた。共生と創造にも目を向けて授業をしたい。
- 子ども主体の授業デザインについて学ぶだけでなく、研修の在り方も学べる機会となり、大変有意義だった。

4. 今回の学習会の時間設定（10:00～16:00（昼食休憩1時間））について教えてください



1 適切であった	23名 (88.5%)
2 長かった	1名 (3.8%)
3 短かった	1名 (3.8%)
4 どちらともいえない	1名 (3.8%)

***88.5%の方が適切であったと回答**

5. やまなし情報教育推進室の学習会で今後取り上げてほしいテーマを教えてください

- AI の利用方法
- 生成 AI の活用の具体について
- 生成 AI に関するテーマも関心があります。
- 様々なツールの有効な使い方などしたら嬉しいです。
- 自治体によって使うソフトや端末が異なると思いますが、校種ごと、授業に特化した研修があったらうれしいです。
- ツールなどがまだ曖昧な部分があったので、ツールの活用についての学習会があったらありがたいなと思った。(現職の先生方向けでは無いかもですが)
- 教科ごとに ICT を使った様々な授業を教えてください
- 校種ごと、教科ごとのグループとなると難しいとは思いますが、悩みなどが共有質問しやすいかと思いました。
- 小学校の具体的な実践がみたいです。
- 授業実践の発表
- 学習者主体になるための教師の働きかけについて
- 藤原和博先生に、「情報教育で社会とつながる」をテーマに講演をしていただけたら、絶対参加したいと思います。
- steam 教育と ICT

やまなし情報教育推進室では今後も情報教育に関する学習会・フォーラムを開催していく予定です。

最新の情報は WEB ページからご確認ください。 <https://www.yamanashi.info/>

第44回 山梨大学教育学部 教育フォーラム

算数・数学科における 主体的・対話的で 深い学びの視点からの授業改善

－全国学力・学習状況調査の結果や模擬授業を通して考える－

今回は、国立教育政策研究所から笠井健一先生をお迎えし、「算数・数学科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について考えます。まず「全国学力・学習状況調査の問題の出題意図」「山梨県における課題」を共有し「主体的・対話的で深い学び」との関連性を明らかにしていきます。そして、なんと！笠井先生が参観者を対象にした模擬授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の方策についてご示唆を与えてくださいます。

みなさんで意見を出し合い、本フォーラムのテーマについて考えていきましょう。

【日時】 2024年11月26日（火） 18:00-20:00

【開催方法】 対面とオンラインのハイフレックス方式

対面会場：山梨大学甲府キャンパス J号館A会議室

【講師】

笠井 健一

（文部科学省 国立教育政策研究所

教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官）

【パネラー】

早川 健（山梨大学教育実践創成講座 教授）

天野 秀太郎（山梨県総合教育センター 副主幹・指導主事）

【コーディネータ】

角田 大輔（山梨大学教育学部附属教育実践総合センター）

【入場料】 無料（対面参加の定員80名）

※申し込み順とさせていただきます

【対象者】 教員 学部学生 大学院生 大学等の研究者

県内外の教育関係者 一般市民の皆さん

【主催】 山梨大学教育学部

【共催】 山梨県教育委員会

【後援】 甲府市教育委員会

【お問い合わせ先】

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター（事務室）

TEL：055-220-8325 FAX：055-220-8790

E-mail：edjissen-as@yamanashi.ac.jp



参加希望の方は、上のQRコードのリンク先より11月18日（月）までにお申し込みください。前日までにZoomミーティング参加のためのURL等をお送りいたします。

■ 10・11月の主な行事予定

10～11月の 行事予定

山梨大学教育学部の
関係行事を含みます

研 修

○第44回教育フォーラム「算数・数学科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～全国学力・学習状況調査の結果や模擬授業を通して考える～」

11月26日（火）18時～20時

※対面・オンラインによるハイフレックス方式で開催します。

対面会場は山梨大学甲府西キャンパスJ号館 5階 A会議室です。

山梨県教育委員会との共催事業です。詳細は本資料内のチラシを御覧ください。

教員採用試験対策講座

○フォローアップ相談会2

10月2日（水）…M2、M1

○時事通信出版局による基礎ガイダンス

10月4日（金）…M1、3年、2年（次年度教採受験者）

○学内模試

10月16日（水）…M1、3年、2年（次年度教採受験者）

11月27日（水）…M1、3年、2年（次年度教採受験者）

○教員採用試験大学推薦説明会

10月23日（水）…M1、3年、2年

○論作文演習

10月24日（木）…M1、3年（次年度教採受験者）

10月31日（木）…M1、3年（次年度教採受験者）

○教員採用試験に向けての相談期間

11月11日（月）～11月15日（金）…1年、2年、3年

教育ボランティア

○後期教育ボランティアガイダンス

10月2日（水）…全学年